

今回のテーマは「車いす」です。

歩行の困難な児童・生徒にとって、車いすは大切な移動の手段です。車いすを使用している児童・生徒を介助する上で知っておきたい、車いすの種類、介助者の心得を紹介していきます。

## 車いすの種類

車いすの種類		特徴	画像
標準タイプ	自走式	使用者が自分で操作する車いす。後輪が介助用より大きめで、ハンドリム(車輪を回すための輪)がついている。	
	介助式	使用者は操作せず、介助者が操作する車いす。	
姿勢変換機能付きタイプ	リクライニング機能 姿勢を変えたいときに用いる。背シート部分がリクライニングできる。リクライニングの際、腰がずれないように注意が必要。		
	ティルト機能 車いすの座面と背もたれの角度を変えずに倒すことができる。		
電動タイプ	モーターで駆動する車いす。手元のハンドルを操作して動くことができる。ハンドル操作は手首の小さい動きで出来るため、手が不自由で自走が出来ない方も、自由に移動をすることが可能。		
モジュールタイプ	使用者の体格や使用方法に合わせて、座面の高さ、背の角度などの調節が可能で、身体状況の変化に従ってある程度の調節もできる車いす。		

## 介助者の心得

「車いすの介助」というのは誰にでもできることですが、何も考えずに介助しているとケガをさせてしまうなど、危険があります。以下のマナー、エチケットのポイントを守ってお互い心地よく過ごせるようにしましょう。

### ☆車いすの人とのコミュニケーションを大切にしましょう。

- ・何をしてほしいのか、どのように介助してほしいかを聞き、本人の意思を尊重して、出来るだけ本人の望む方法で介助しましょう。
- ・誰でもいきなり車いすを動かされると驚いてしまいます。ことばの分かりづらい児童・生徒も、ことばがけを忘れないようにしましょう。

### ☆1人で無理をしない。

- ・無理な時には、周囲の人に協力を求めましょう。
- ・わからないことはしないようにしましょう。

### ☆車いすの操作方法について知っておきましょう。□

- ・介助中の事故を防ぐには、車いすの正しい操作方法を知ることが大切です。

### ☆その他

- ・動きやすい格好、できるだけ両手をあけられるカバンを持つように心掛けましょう。
- ・一度車いすに乗ってみて、乗車中の目の高さを体験し、車いすの方の気持ちになってみましょう。
- ・恐怖感を与えない。命を預かっているという気持ちを忘れないようにしましょう。

さて、車いすに長時間座り続けていると、身体にはどのような影響があると思いますか？

特に標準タイプの車いすは、座面の前方が3センチメートルほど高くなっているため、上体が後ろに下がってしまいます。車いすに座って上体を起こそうとすると猫背になるため、顔を上げることは体に負担がかかり、背や腰、首を痛める原因になります。また、体の同じ部分が常に車いすと接しているため、じょくそうの発生も引き起こしてしまうこともあるのです。足の不自由な児童・生徒にとって不可欠な車いすですが、この点で注意が必要です。

今回は「移動」を用途にした車いすと介助者としての心得についてご紹介させていただきました。児童・生徒が心地よく学校生活を送れるよう、ぜひ参考にしてください。次回は、「移動」以外の用途で使用する「座位保持椅子」についてご紹介します。